

# 鴨川ふるさと会だより

— 第27号 —

## 海辺エリアに新たな魅力 商業施設が4月27日オープン

クラフト  
ビールが  
自慢!!



### 前原地区に観光スポット 浜焼き、直売、魚介メニューがずらり

令和5年4月に前原地区鴨川フィッシュヤリーナ後背地の魅力体験広場に新たな商業施設「KAMOGAWA SEA SIDE BASE」がオープンします。

この魅力体験広場は、前原横渚海岸周辺地域の活性化を目指す「海辺の魅力づくり推進事業」の拠点で、これまで、ホワイトサンドの砂浜や休憩施設を整備してきましたが、いよいよ中核となる商業施設の整備が完了し、海辺エリアの新たな観光スポットとして賑わいが期待されます。

商業施設の建設・整備は、公募型プロポーザルで選定された民間事業者が行ったもので、クラフトビールの製造・販売やベーカリー、飲食スペースなどの2階建ての施設と、地元で水揚げされた新鮮な魚介類が味わえる浜焼き、直売などの平屋の施設で構成。海辺の魅力を活かした商業施設として、鴨川ならではの商品メニューに工夫を凝らし、集客を図ります。

#### 美しい海岸線 マリンスポーツも充実

施設のある前原・横渚海岸は、日本の渚百選に選ばれる



美しいロケーションを持ち、海岸線に沿って植えられたヤシの木が南国ムードを醸しだしています。この美しい海岸の景色と、肌を感じる潮風、寄せては返す波音を感じながら飲食を楽しむことができます。

また、同海岸では海水浴のほか、サーフィンなどのマリンスポーツやビーチスポーツなど多様なレクリエーションに親しめる環境づくりが行われてきました。これらのコンテナの更なる充実を図るとともに、年間を通じて来訪者におもてなしを提供できる観光エリアとしてスタートを切ります。

鴨川へお帰りになった際は、魅力体験広場へ、ぜひ、立ち寄りください。

# 長狭高校 創立百周年に 感謝



## 百周年の節目を祝う 同窓会員を招き記念式典

長狭高校では、令和4年10月29日に創立百周年記念式典が開かれ、在校生や同窓会員、PTA関係者が出席し百周年の節目を祝いました。

## 新たな門出をお祝い コンサートが花を添える

式典では、初めに校旗が入場。山口健一校長の式辞、実行委員会委員長の長谷川孝夫鴨川市長、生徒代表の稲葉友花さん(3年)のあいさつ、来賓祝辞が行われ、出席者は校歌や第二学生歌の斉唱、プレフレ長狭のエール交換などで母校を懐かしみました。

長谷川市長は「三大綱領の誠実、勤儉、高潔の精神が連綿と紡がれ、優秀な卒業生を輩出してきたことは、同窓の一人として誇らしい。在校生をはじめ関係者の今後益々の飛躍を期待する」、稲葉さんは「地域に根差した高校として、先輩たちが積み重ねてきた歴史と伝統があるからこそ私たちが学ぶことが出来ている。先輩たちの教えを胸に刻み、101年目に向け歩んでいく」と100年にわたる歴史の振り返りと新たな門出に向けた抱負などを述べました。

式典後は、在校生の角野由佳さん(3年)が「SDGs The Next 100」を題材に英語スピーチ、令和3年度卒業生の菊池武留さんがホルン演奏を披露しました。

また、記念事業として、卒業生のフルート奏者の鷹松李奈さんやユーフォニアム奏者の

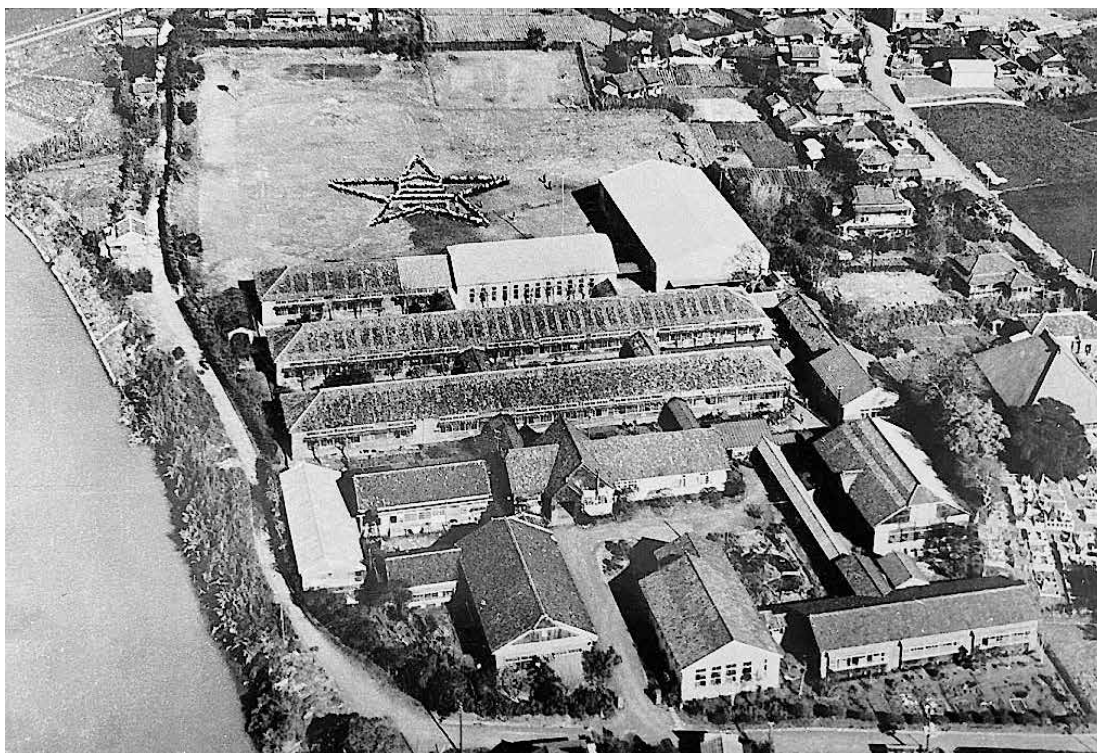


警察音楽隊の音色が響く

吉田えりさんなどによる記念コンサートや、警察音楽隊の演奏会が行われ創立百周年に花を添えました。

## 住民の熱意が実を結ぶ 開校の地は神蔵寺

同校は、長狭地域に中等教育機関を設けようという住民の熱意と努力により、大正11年に地元町村の組合立長狭中学校として開校しました。昭和3年には県に移管され県立長狭中学校に、昭和23年に学制改革により県立長狭高等学校と改称しました。開校当初は神蔵寺を仮校舎とし、翌年に隣地の旧鴨川中学校の敷地に校舎を建設。その後手狭となったため、昭和40年に現在地に移転しました。



← 旧鴨川中学校(現亀田医療大学)にあった旧校舎、校舎右の大きな屋根の建物が神蔵寺。

権現橋がないことから、昭和36年6月の集中豪雨により流失した後の写真。写真下の見切れている部分に仮設の橋が

造られます。昭和37年には現在の権現橋が架設されたこと、昭和38年には生徒数の急増に対応するため、校庭にプレハブ校舎が建てられていることから、昭和36年後半ごろに撮影されたと推定されます。

# 鴨川市の将来を考える

## 中学生まちづくり議会を開催

まちづくりの  
アイデアを  
中学生目線で提案

1月23日(月)、市内の3中学校の代表が参加した「中学生まちづくり議会」が、市議会議場で行われました。

これは、本市の未来を担う子どもたちに、まちづくりについての意見やアイデアを聴く機会を設けることで、市政への関心や郷土愛をもってもらうとともに、意見を今後の市政運営に生かすため開催し



たものです。

各中学校から選ばれた11人が議長と議員を務め、市議会と同じように進行。市執行部に対し、日ごろ疑問に感じていること、これからのまちづくりへの思いなど、中学生ならではの視点から質問や提案を投げかけました

議長、議員役に  
分かれ  
堂々と市長に質問

当日、議長を務めたのは、鴨川中学校2年生の豊嶋晟奈さんで、その他の10人は議員として議席へ着席しました。

執行部側には三役のほか、佐々木久之市議会議長、議事事務局長や質問に関係する部長などが出席しました。

中学生議員の皆さんは、議長から名前を呼ばれると2人1組で登壇。議長の進行の下、堂々とした様子で、質問や提案を述べました。その後、質問・提案に関する市長や教育長の答弁を、真剣な表情で聴き入っていました。

閉会后、長谷川市長は「皆さんの声をしっかりと受け

止め、今後のまちづくりに生かしていきたい」と述べ、「将来、鴨川市のまちづくりの役割として活躍してくれることを願っています」とエールを送りました。

中学生議員の  
提案・質問

- ▼山崎温仁(長狭中2年)
- ・鴨川市への移住・定住
- ▼笹生由愛(長狭中2年)
- ・給食の残飯をなくすために

- ▼渡邊橙瑚(鴨川中2年)
- ・鴨川市の医療費
- ▼山田悠生(鴨川中2年)
- ・スポーツ複合施設の設備と誘致

- ▼森吉康太(安房東中2年)
- ・鴨川市の活性化
- ▼高木寛介(安房東中2年)
- ・今後の安房東中学校
- ▼鈴木碧人(鴨川中2年)
- ・鴨川市の高速道路の整備
- ▼石塚光(鴨川中2年)
- ・曾呂地区の交通手段
- ▼安室 悠生(鴨川中1年)
- ・鴨川中学校特別棟のエアコン設置
- ▼山本陽菜(鴨川中1年)
- ・学校給食での地産地消の取組と割合

### 野球や駅伝などの強豪校も 約4800人が鴨川でスポーツ合宿



春の訪れが一足早い鴨川市では、2、3月の春休み期間に、温暖な気候と運動施設を求めて、県内外から多くの高校生や大学生をはじめ、さまざまなスポーツ団体が、合宿に訪れました。

今年の春の選抜高校野球大会に出場した東北高校をはじめ、聖光学院高校や法政大学、明治学院大学などの野球部9団体、早稲田大学、市立船橋高校などの陸上競技の4団体、学習院大学男子・女子ソフトボールの2団体など、約4800人が利用しました。

東北高校の佐藤監督は「仙台は積雪、一方、鴨川は菜の花が咲いている。温かい環境で、しかも人工芝の室内でも練習ができる。ぜひ、鴨川での練習の成果を甲子園で発揮したい」と話していました。



## 日本最大級のバスターミナル 「バスタ東京八重洲」 第一期オープン

昨年9月17日(土)、東京駅前「バスターミナル東京八重洲」(以下、「B.T.Y.」)が開業しました。

2028年度の全面開業に向け3回に分け順次開業し、今回は、第一期開業に当たります。

全面開業すると、専有床面積約2万1000平方メートル、乗降用20バス、待機用8バスを備える、高速バス中心のバスターミナルとしては国内最大級の規模になる予定です。

今回オープンした第一期エリアは、乗降用に6つ、待機用に3つのバスと、発券窓口、待合ロビー、コンビニなどを備えています。

### 千葉方面の全路線がB.T.Y.へ移行

日東バスや京成バスなどの千葉県方面への路線全5便がB.T.Y.へ移行したことで、口



ビーでバスを待てるようになりました。

鴨川方面のバスは、およそ1時間に1本の割合で運行されています。

B.T.Y.までは地下街を通過して徒歩5分程度

八重洲南口(地上)を出て、八重洲地下街へ向かい、「八重洲地下街」を直進し、突き当りを右に進むとバスターミナル入口があります。バス乗り場は地下2階です。

八重洲南口からバスターミナルまでは、徒歩で5分程度です。

曲がるのは1回だけです。

### ショッピングも楽しめる

再開発により、商業施設や高級ホテルなどが入居する「東京ミッドタウン八重洲」の地下にB.T.Y.(第一期)が設けられたことで、京橋、銀座や日本橋方面との回遊性も高まり、ショッピングも楽しむことができます。

## 大山千枚田と川代の 棚田の2地区が選定

## 農水省の「つなぐ棚田遺産」に

農林水産省は「ポスト日本の棚田百選」として、全国の優良な棚田 271 地区を「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に選定しました。

安房地域からは、本市の大山千枚田と、川代柿ノ木代棚田が選ばれました。千葉県内では同2地区のみで、棚田を核とした地域振興の取り組みが評価されました。

同省は平成2年、担い手の減少、耕作者の高齢化などで、地元農家だけでは棚田保全が難しくなっている実情を背景に、優れた棚田 134 地区を「日本の棚田百選」に認定。構造改革特区の棚田特区、保全活動に取り組む地域を支援する棚田地域振興法などで後押ししてきました。百選認定から 20 年以上が経過したこと、棚田オーナー制度をはじめとする様々な取り組みが全国で広がったことから、改めて優良な棚田を評価し、多面的な機能を国民に知ってもらおうと、「つなぐ棚田遺産」を選定したものです。

大山千枚田は、平成9年設立の大山千枚田保存会(石田三示理事長)の下、米づくりを体験できる棚田オーナー制度をはじめ、古民家レストランでの地場農産物の販売、地域の食文化の普及など、多彩な活動を展開。都市部の住民から人気を集め、年間3万人以上が来訪しており、「日本の棚田百選」にも認定されました。

「つなぐ棚田では、300に近い棚田の保全が評価された。百選や、地域の活動によって、全国で棚田保全への注目が高まっている証だと思う。認定を機に、さらに活動に力を入れていきたい」と石田理事長。

川代柿ノ木代棚田は、川代集落(庄司祐輔代表)が棚田オーナー制度や、刈り入れ後の収穫祭などを実施。また、スポーツを通じた地域活性化に取り組んでいる「ウェルネススポーツ鴨川」と連携し、草刈りをスポーツと捉えて楽しむイベント「BOSO草刈りサミット」や、田植え前の棚田で泥遊びを楽しむ「どろんんピック」などの催しに、会場を提供しています。

庄司代表は、「認定を受けたことは、名誉であると同時に、プレッシャーも感じている。賞に恥じないよう、これからも地域振興に励みたい」と背筋を伸ばしていました。

